

所内研修より

所員会議内の様々な講話の中からご紹介いたします

「部活動指導について」 ～新屋高校での吹奏楽指導の実践から～

特殊教育・相談研修部 部長 高野 豊 昭

私の部活動指導は、一生懸命に努力する高校生と本音で語り、刺激し合うものでした。何よりも自分のやりたいことを見付け、努力することの大切さに気付いた生徒の存在を嬉しく思いました。

それでは指導の一端を紹介します。
(1) なぜ、部活動か
部活動にこだわった理由は、生徒たちに「社会の一隅を照らす人」になってほしいとの思いからでした。そして、この目的を成就させるために、部活動をそのためのリハーサルと位置付け、このテーマの具体的な実践目標を「礼節・和・努力」と設定しました。

(2) 指導者としての実践
個々の生徒のよさを生かすために、生徒に対する基本的スタンスを次のように考え、すべての活動に応用し徹底させました。

- ① 君は今日のために何をしたか(準備)
 - ② 君は今日何を得たか(成果と反省)
 - ③ 君は明日何を求めに来るのか(課題)
- また指導者として、この二つにこだわりました。

① 常に生徒と共に在れ
教育活動の基本は生徒と共に在ることと考えます。「共に在る」ということは、信頼の絆で結ばれている気持ちの在り方を示しています。また、私は生徒を掌握するために自分の腕を大きく開き、その中で自由奔放に活動させることを目指しました。腕の中とは目の届くところに生徒をおくことです。もちろん、時折は見て見ぬふりをする必要ですが、大切なことは指導者の知らない生徒の世界をつくらないことです。

② 帰りのリュックに重荷を背負わずな
今日の練習では上手くいった者も失敗した者も一生懸命の時間を過ごしました。こんな彼らに、指導者は一日一回エールを送るつもりで褒めるか激励してやってほしいと思います。少なくとも生徒のリュックに重荷を入れて帰すのは避けるべきです。怒るときも真剣、褒めるときも一生懸命の「基本」をもつことが大切と自分に言い聞かせておりました。

まとめとして、教育の営みのポイントは、生徒も指導者も情熱と意欲をもち続けることだと思います。部活動は結果のみを追求するものではなく、日々の実践のプロセスこそ大切であります。ここに「社会人になるためのリハーサル」としての位置づけがあります。今、学校の活性化、特色ある学校づくりの要素の一つとして、部活動の果たす役割が静かに再認識されております。部活動の指導者は確固たる信念をもち、生徒たちに「たくましく生きるための道標」を示唆してほしいと願います。

(小) 特別活動

学校行事における自主的、実践的な態度をはぐくむ体験的な活動の工夫

教職研修部 研修員 朝香 和也

本研究では、学校行事について自分の実践を振り返り、三つの場面から研究主題に迫る方策を考えました。最初の「教師の事前の準備」では、教師が学校行事を計画、構想する手立てについてです。次の「児童の計画立案から実践」では、児童と教師が総合的、長期的な展望をもつための取り組み方についてです。最後の「児童の事後の活動と評価」では、児童の学校行事に対する評価、自己評価、そして他者評価の方法について焦点を当てました。

特に研究主題と関連が深いのは「児童の計画立案から実践」の場面です。児童が、自ら立案、構想し、自分の活動を振り返りながら学校行事に参画していくという流れを考えました。これらの基盤になっている考えは、児童や教師の活動の、足跡が見えるような資料を作成し、活用するということです。この研究を通して、児童に自主性や実践力を明確に意識させることができる足がかりができたと思います。

今後は、児童が、教科、道徳、総合的な学習の時間においても活動に総合的に取り組み、参画型の学びになっていくように研究を続けたいと考えています。

一年間の研究を進めるに当たって、各小学校の教育計画やふるさと子どもドリームアップ事業実践報告集の実践事例を読ませていただきました。児童の自主性や実践力を高めるための緻密な計画、ダイナミックな実践が述べられており大変参考になりました。また、センター所蔵の書籍や研究紀要から特別活動の教育的意義や歴史など理論的な部分に関しても深く研究することができました。

秋田県総合教育センター研修員として、貴重な一年間を過ごせたことは、たくさんの方々のご指導ご協力のおかげと本当に感謝しております。

一年かかって
生まれましたよ!



総合教育センターの研修員の研究を紹介します。

(中) 技術・家庭科

生活者としての視点から消費と環境をとらえ、より豊かな生活を創造する実践的な態度を育てる指導の工夫

教科研修部 研修員 倍 貴 淳

消費中心となった現在の家庭生活において、よりよい生活を創造していくためには消費の在り方を実感させることが重要であると考え研究を始めました。特に環境に配慮した消費行動については教育活動全体を通して学ぶ必要があります。そのため技術・家庭科の学習目標を明確にした指導計画の検討と実践的・体験的な学習活動を積極的に取り入れた授業を工夫・創造しました。

検証授業では個々の生徒が取り組もうとする課題の解決に向けた調査・見学活動、学習段階に沿って記入しながら問題意識と達成感をもてる学習シートの作成と活用、学習の発展性を期待する技術・家庭科通信をもとにした家庭との連携を中心に取り組みました。

一連の学習を通して生徒たちは、これまで何気なく行っていた購入や廃棄の仕方について考え、認識を新たにしました。消費の在り方についての学習は家庭生活から始まり、家庭生活へ返っていくこと、生活の仕方が周りに影響を与えることを実感でき、学んだことをもとに環境にやさしく豊かな生活を実践していこうとする姿が見られました。

今後は、実践的・体験的な学習活動を重視した指導計画や指導内容を一層充実させること、学習したことを生かして生徒が家庭生活に積極的にかかわり、働きかけが広がっていく喜びや充実感を得られる題材の開発や工夫及び評価の在り方について研究を深めていきたいと考えています。

(高) 地理歴史科

歴史的思考力の育成を支援する情報手段の活用

情報教育研修部 研修員 齊 藤 雅 子

普通教科における情報手段の活用目的は、あくまで教科等の目標達成につながることであり、目標を明確にとらえた学習活動の中で活用しなければ、その効果は十分に上がらないと考えられます。

そこで本研究では、世界史の科目の目標にある「歴史的思考力」の具体化を図り、どのように情報手段を活用すればその育成につながるか、ということについて検証しました。研究の中心は、情報手段を活用した教材の作成、及びその教材とグループウェアソフトを用いた授業の実践です。特に実践授業からは、次のような検証結果が得られました。

- ① 音声・地図・動画など多様な形態の資料を統合的に活用する学習活動は、歴史を身近な目線でとらえさせ、過去とのつながりから理解させることにつながりました。
- ② インターネット上の研究者の論文から紛争の背景をさぐったり、異なる視点の資料を読み比べたりする学習活動は、歴史解釈の多様性を理解させることにつながりました。
- ③ 表計算ソフトを用いた資料作りやインターネットによる情報検索などの学習活動は、歴史解釈の仕方や裏付けとなる資料の条件などを理解させることにつながりました。
- ④ 電子掲示板に各自の意見を書き込み、互いに読み合う学習活動は、他者の意見との比較や根拠に基づく判断の大切さを理解させることにつながりました。

これらの結果から、歴史的思考力の育成につながる情報手段の活用の仕方が見えてきました。今後もこの成果を生かし、目標の達成に結びつく具体的な学習活動について研究していきたいと思っています。

(高) 生徒指導

高等学校におけるソーシャルスキル・トレーニングの導入を目指して ～良好な対人関係を生徒自ら形成する技術を育成する授業～

特殊教育部 相談研修部 研修員 後 藤 和 芳

人づきあいには、心だけでなく適切な知識や行動(ソーシャルスキル)が必要です。しかし、昨今の児童生徒には、それを自然に身に付ける環境や体験が慢性的に不足しているといわれています。その結果、人とかわることを面倒がったり拒絶したりする、また人と誤ったかわり方しかできず、自分が傷ついたり攻撃的になったりする児童生徒が増えてきています。

さて、特定の児童生徒に望ましい人づきあいの仕方を教えるだけでなく、あらゆる児童生徒に人間関係の大切さ・よさを実感させ、問題行動や集団不適応を予防・改善する取り組みの一つに、ソーシャルスキル・トレーニング(SST)があります。小・中学校ですでにSSTの必要性が認められ導入が始まっていますが、高等学校ではあまり見受けられません。

本研究では、SSTの導入が高等学校に進まない理由を、高等学校の教育課程や多様な高校生の実態に沿った実施方法が確立されていないことにあると考えました。そこで、高校生に必要と思われる19のソーシャルスキルについて、それらを構成する、より具体的な下位スキル(サブスキル)を考察しました。その上で、サブスキルまで踏み込んだ実態調査を行い、指導計画・指導案を作成し、SSTを取り入れた検証授業を行いました。その結果多くの生徒がより深い交流と新しい気持ちを経験し、ソーシャルスキルを学ぶことが「意義深く、ためになり、おもしろい」と感じたことが明らかになりました。

研究を通じて、生徒指導の問題を深く掘り下げることができ、教師としてこれからどう変わるべきかをいろいろと考えることができました。何よりの収穫は、生徒はきっとよくなるという実感です。今後は、研究・実践を深め、SSTを高等学校の教育活動全体に生かすための方策を探していきたいと思っています。